

経済論壇から



大阪大学教授 大竹 文雄

六月、鬱陶しい梅雨空が続くこの時期は私たちの感じる「不安感」が一段と増す頃でもある。私たちが生きる現代社会は、あらゆる種類の不安に満ち溢れている。将来への不安感が募るとそれに対応する方法は、実は二通りしかない。第一の方法は、不安そのものをなくすために様々な努力をすることである。第二は、将来のことを考えるのを一切放棄して不安から一時的に(あるいは半永久的に)逃げてしまふことである。

社会に広がる「不安感」

経済学的思考必要に

直感が幅を利かせてゆく。日本は「私たち一人ひとりがものを考えることを止めた直感社会」になってしまったというのが同氏の分析だ。

事故など、最近の出来事に対して、組織内における「共感」の重要性を指摘しているのが経済産業研究所の小林慶一郎氏(論座7月号)である。同氏によれば、市場における企業の行動を律するのは、利潤最大化行動である。一方、会社の中で社員を律するのは、崇高な使命のために自分たちは動いているという使命感であり、それを支えるのは、顧客や仲間に対する「共感」である。その共感の欠如が問題を引き起こしたのではないかと小林氏は言う。

直近のことを考える際に活動する脳の領域と、将来のことを考える際の脳領域と、異なることが、最近急速に発達してきているニューロエコノミクスによって明らかにされている。高村氏や小林氏がいう論理的な思考や共感の欠如は、将来のことを考えるはずの脳の領域の活動が、不安の蔓延をきっかけに衰え、その結果、ある種の「人間らしさ」が失われてきていることを意味しているのではないかと。そうだとすれば、「不安」の広がりは日本社会だけでなく、世界全体にとっても極めて危険である。そういう意味で興味深いのが

高原基彰氏の論考(中央公論7月号)である。この中で高原氏は中国における反日デモの背景にも漠とした不安があることを示唆している。

アジアにおける都市中間層の若者は、日本と同じ高度消費社会の住人であり、彼らの間に社会に対して新しい種類の「不安」が培養されつつある。高原氏によれば、それを象徴するのが今回のデモの参加者である。農村からの出稼ぎ労働者や失業者に加え、都市に住む「中間層モブ(群衆)」や若者が不安感を背景に参加したのが今回のデモの最大の特徴だといふ。

高原氏の指摘は、統計的にも確認できる。桃山学院大学教授の厳善平氏(経済学)がシナ16月号によれば、全国レベルでは不平等化のペースは一時より弱

いがちな官庁に、経済学の訓練を受けた人が数多くいたならば、随分と状況は異なっていたに違いない。もっとも、全員がエコノミストになることは難しい。それでは、私たちはどうしたらよいのだろうか。

不安に直面すると、私たちは今だけのことを考えるという人間の本能的な行動様式で対応してしまいがちである。しかし、それではいつまでも不安は解消されない。本当の不安解消策は、将来を考えて現在の行動を決めるといふ行動様式を私たちが意識的に取り戻す以外はない。その点で参考になるのが東京大学名誉教授の畑村洋太郎氏(文芸春秋7月号)が提唱する「失敗学のすすめ」である。

同氏によると、JR西日本と同時に民営化されたJR東日本は三年前、福島県白河市の総合研修センター内に、「事故の歴史展示館」を設け、過去の事故体験を傍観者としてではなく、当事者として、経験知として学ぶ仕組みを設け、新入社員全員を研修させている。「人間は必ずミスをする」が失敗学の前提で、そのために過去から教訓を学ぶ必要があるといふ。

漠たる不安が日本のみならず世界に広がっている。あるいは今後ますます広がるとするなら事態は深刻である。相手も直感的な対応をとるとするならば、予想もしない結果が出てくる可能性があるからである。相手にだけ長期的な視野や共感を求めることは土台無理な話である。最低限、私たちがだけはリスクの大きい直感的な対応から脱却できるように、過去から学ぶ姿勢を持つ必要があるのではないかと。

作家の高村薫氏(論座7月号)は、日本人は不安に対して後者の対応を取ってきていると指摘する。「企業も、あるいは国や私たち生活者も、少し先のことを考えて、今何をどうすべきかという発想がでなくなっており、それがいまや日本人の体質になりかけている」。そうした体質が、JR西日本の事故につながっただけでなく、日本において様々な問題が先送りされていく原因だといふ。その体質は自分だけよければいいという考え方に「なり、皮肉なことだが、社会全体の「安心」をさらに奪ってしまふ」。

どうしてこうなってしまっただろう。同氏によれば、常識が覆されたり、生活全体にかかわる安心が失われると、人々は漠



高村薫氏



小林慶一郎氏



厳善平氏



畑村洋太郎氏

が出てくる。根拠のない直感論も議論も受け付けないので、いかなる改善も発展も望めない。そうしてますます社会は停滞し、不安が蔓延し、さらに